

[分類] 普及技術

[成果名] 移植水稲用初中期除草剤ヤイバ 1 キロ粒剤、ヤイバ豆つぶ 250、ヤイバジャンボ、ベストパートナージャンボ、ムソウ 1 キロ粒剤、マイウエイ 1 キロ粒剤、マイウエイジャンボ、マイウエイゼロ 1 キロ粒剤は水田雑草防除に有効である。

[要約] 移植水稲用初中期除草剤ヤイバ 1 キロ粒剤・ムソウ 1 キロ粒剤を移植後 3 日からノビエ 3 葉期までに 1 kg/10a、ヤイバ豆つぶ 250 を移植後 3 日からノビエ 2.5 葉期までに 250g/10a、ヤイバジャンボを移植後 3 日からノビエ 2.5 葉期までに 250g(25g×10 パック)/10a、マイウエイ 1 キロ粒剤を移植後 3 日からノビエ 2.5 葉期までに 1 kg/10a、マイウエイジャンボを移植後 3 日からノビエ 2.5 葉期までに 250g(25g×10 パック)/10a、ベストパートナージャンボを移植後 7 日～からノビエ 2.5 葉期までに 250g(25g×10 パック)/10a、マイウエイゼロ 1 キロ粒剤を移植直後からノビエ 2 葉期または田植時に同時散布機により 1 kg/10a 散布することで効果的な水田雑草防除が可能である。

[担当] 農業試験場作物部・農業技術課

[部会] 作物部会

1 背景・ねらい

省力的で除草効果の高い移植水稲用初中期除草剤の実用性を検討し、新しく利用できる剤として情報提供する。

2 成果の内容・特徴

(1) 移植水稲用初中期除草剤ヤイバ 1 キロ粒剤・ムソウ 1 キロ粒剤を移植後 3 日からノビエ 3 葉期までに 1 kg/10a、ヤイバ豆つぶ 250 グラムを移植後 3 日からノビエ 2.5 葉期までに 250g/10a、ヤイバジャンボを移植後 3 日からノビエ 2.5 葉期までに 250g(25g×10 パック)/10a、マイウエイ 1 キロ粒剤を移植後 3 日からノビエ 2.5 葉期までに 1 kg/10a、マイウエイジャンボを移植後 3 日からノビエ 2.5 葉期までに 250g(25g×10 パック)/10a、ベストパートナージャンボを移植後 7 日～からノビエ 2.5 葉期までに 250g(25g×10 パック)/10a、マイウエイゼロ 1 キロ粒剤を移植直後からノビエ 2 葉期までに 1 kg/10a 湛水処理する。またマイウエイゼロ 1 キロ粒剤は田植え同時散布が可能である。

農薬登録内容

ヤイバ 1 キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン 0.5%、フェントラザミド 3%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：ピリミスルファン A 類、フェントラザミド B 類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成 23 年 10 月 12 日現在 J P P - N E T 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、アオミドロ・藻類による表層はく離	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植直後～ノビエ 3 葉期(砂壤土は移植後 3 日～ノビエ 3 葉期) 但し、移植後 30 日まで	1kg/10a	1 回

ヤイバ豆つぶ 250

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン2%、フェントラザミド12%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：ピリミスルファンA類、フェントラザミドB類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成23年10月12日現在 J P P - N E T 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	湛水散布 又は湛水 周縁散布	砂壤土～ 埴土	移植後3日～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	250g/10a	1回

ヤイバジャンボ

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン2%、フェントラザミド12%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：ピリミスルファンA類、フェントラザミドB類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成23年10月12日現在 J P P - N E T 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植後3日～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	小包装（パ ック）10個 （250g）/10a	1回

ベストパートナージャンボ

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン2%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：ピリミスルファンA類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成23年10月12日現在 J P P - N E T 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植後3日（但し、砂壤土は移 植後7日）～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	小包装（パ ック）10個 （250g）/10a	1回

ムソウ1キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン0.5%、メフェナセット12%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：ピリミスルファンA類、メフェナセットB類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成23年10月12日現在 J P P - N E T 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、アオミドロ・藻類による表層はく離	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植後3日～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	1kg/10a	1回

マイウェイ1キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン0.55%、オキサジクロメホン0.8%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：ピリミスルファンA類、オキサジクロメホンA類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成23年10月12日現在JPP-NE T確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及びマツバイ、 ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤ ツリ、ヒルムシロ、セリ	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植後3日～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	1kg/10a	1回

マイウェイジャンボ

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン2.2%、オキサジクロメホン2.4%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：ピリミスルファンA類、オキサジクロメホンA類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成23年10月12日現在JPP-NE T確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及びマツバイ、 ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤ ツリ、ヒルムシロ、セリ	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植後3日～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	250g/10a	1回

マイウェイゼロ1キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン0.5%、オキサジクロメホン0.6%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：ピリミスルファンA類、オキサジクロメホンA類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成23年10月12日現在JPP-NE T確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、ヒルムシロ、 セリ	田植同時散布 機で施用	砂壤土～ 埴土	移植時	1kg/10a	1回
		湛水散布		移植後3日～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで		

3 利用上の留意点

(1) 利用上の留意事項は、「農作物病害虫・雑草防除基準（長野県）」の除草剤の使用法（初中期除草剤）を参照する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) ヤイバ1キロ粒剤

ア 平成19年に農事試験場で実施した試験では、移植後3日～ノビエ3葉期処理の除草効果は高かった(表1)。移植後3日～ノビエ3葉期処理で軽微な薬害が認められたが、その後の生育収量への影響はなかった(表2)。

表1 ヤイバ1キロ粒剤の雑草防除効果^{a)}(平成19年、農事試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生 広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計	クログワイ ^{e)}
ヤイバ1キロ粒剤	+3日 1kg	0	0	0	0	t	(0)
	ノビエ3葉期 1kg	0	0	0	2	3	(0)
トップガンLフロアブル	+5日 500ml	0	0	0	0	0	(0)
体系除草 ^{b)}	+0日→+20日 1kg+1kg	0	0	0	t	t	(0)
無処理	—	1.3	12.6	35.9	16.2	66.0	(2.0)

a) 除草剤各処理区の数値は対無処理比(%), 無処理区は乾物重(g/m²), 「t」はtrace(痕跡)を示す

b) 体系除草はソルネット1キロ粒剤→マメットSM1キロ粒剤

c) 処理時期の+は移植後日数

d) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

e) 塊茎埋め込み試験、合計から除外

試験方法: 試験場所は農事試験場水田ほ場(標高340m、中粗粒グライ土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/m²)。代かきは5月9日、移植は5月14日。1区7.2m²2区制。

調査方法: 移植37日後に調査した。

表2 ヤイバ1キロ粒剤処理による水稻生育・収量への影響(平成19年、農事試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	薬害			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	出穂期 (月/日)	精粒重 (kg/10a)	体系 除草区 比(%)
		症状	程度	回復の 遅速						
ヤイバ 1キロ粒剤	+3日 1kg	初期生育 抑制	微	早	75	673	499	8/3	806	97
	ノビエ3葉期 1kg	初期成育 抑制	微	早	71	613	464	8/3	750	94
トップガンL フロアブル	+5日 500ml	—	無	—	71	496	405	8/3	668	81
体系除草 ^{b)}	+0日→+20日 1kg+1kg	—	無	—	74	513	412	8/3	828	100
無処理	—	—	—	—	59	271	235	8/3	391	47

b)、c)、試験方法は表1と同じ。

調査方法: 草丈・茎数は7月1日調査。

イ 平成23年に岡谷市の現地ほ場で実施した試験では除草効果は高く(表3)、薬害は認められなかった。

表3 ヤイバ1キロ粒剤の雑草防除効果^{a)}(平成23年、諏訪農業改良普及セ)

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	ノビエ	アゼナ	ホタルイ	オモダカ	合計
ヤイバ1キロ粒剤	+6日	1kg	0	0	2	1	1
無処理	—	—	0.5	1.1	3.7	26.0	31.3
(比較) ^{b)} ピラクロエースフロアブル	+6日	500ml	0	470	59	11	33

a)、c)は表1と同じ

b)比較は試験区の隣接ほ場で実施

試験方法: 試験場所は岡谷市(標高760m、灰色低地土・壤土)。品種は「あきたこまち」、中苗。代かきは5月18日、移植は5月25日。1区6a、反復なし。

調査方法: 6月21日に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(2) ヤイバ豆つぶ 250

ア 平成 23 年に農業試験場で実施した試験では、移植後 3 日～ノビエ 3 葉期処理の除草効果は高かった（表 4）。移植後 3 日処理で軽微な薬害が認められたが、その後の生育収量への影響はなかった（表 5）。

表 4 ヤイバ豆つぶ 250 の雑草防除効果^{a)}（平成 23 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{d)}	マツバイ	ホタルイ	合計
	処理量(/10a)						
ヤイバ豆つぶ 250	+ 3 日 250g	0	0	0	0	0	0
	ノビエ 3 葉期 250g	0	0	t	0	0	t
トップガンLフロアブル	+ 5 日 500ml	0	0	t	0	t	t
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日 1kg+1kg	0	0	t	0	t	t
無処理	—	35.3	0.2	75.4	0.1	76.1	187.1

a)、c) は表 1 と同じ

b) 体系除草はソルネット 1 キロ粒剤→ザーベックス 1 キロ粒剤

d) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場（標高 340m、中粗粒グライ土）。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植 (22.2 株/m²)。代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 13 日。1 区 7.2 m² 2 区制。

調査方法：移植 37 日後に調査した。

表 5 ヤイバ豆つぶ 250 処理による水稻生育・収量への影響（平成 23 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	薬害			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
		症状	程度	回復の遅速		
ヤイバ豆つぶ 250	+ 3 日 250g	初期生育抑制	微	早	63	494
	ノビエ 3 葉期 250g	—	無	—	64	600
トップガンL フロアブル	+ 5 日 500ml	—	無	—	64	500
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日 1kg+1kg	—	無	—	64	93
無処理	—	—	—	—	61	339

b)、c)、試験方法は表 1 と同じ。

調査方法：草丈・茎数は 7 月 1 日調査。

イ 平成 23 年に木曾郡木曾町の現地ほ場で実施した試験では除草効果は高く（表 6）、薬害は認められなかった。

表 6 ヤイバ豆つぶ 250 の雑草防除効果^{a)}（平成 23 年、木曾農業改良普及セ）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	アゼナ	ホタルイ	オモダカ	合計
ヤイバ豆つぶ 250	+ 11 日	250g	0	0	1	t
(比較) ^{b)} スパークスター粒剤	+ 9 日	3 kg	0	0	t	t
無処理	—	—	0.4	5.6	6.9	12.9

a)、c) は表 1 と同じ

b) 比較は試験区の隣接ほ場で実施

試験方法：試験場所は木曾郡木曾町三岳（標高 800m、黒ボク・埴壤土）。品種は「もちひかり」、中苗、機械移植。代かきは 5 月 21 日、移植は 5 月 28 日。1 区 10a、反復なし。

調査方法：7 月 7 日に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(3) ヤイバジャンボ

ア 平成 22 年に農業試験場で実施した試験では、移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期処理の除草効果は高かった(表 7)。移植後 3 日処理で軽微な葉害が認められたが、その後の生育収量への影響はなかった(表 8)。

表 7 ヤイバジャンボの雑草防除効果^{a)}(平成 22 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)}	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計
	処理量(/10a)					
ヤイバジャンボ	+ 3 日 25g×10	0	0	0	0	0
	ノビエ 2.5 葉期 25g×10	0	0	t	t	t
トップガンLフロアブル	+ 5 日 500ml	0	0	t	0	t
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日 1kg+1kg	0	0	0	1	t
無処理	—	13.5	t	25.0	40.7	79.2

a)、c)は表 1 と同じ

b)体系除草はソルネット 1 キロ粒剤→マメット SM 1 キロ粒剤

d)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高 340m、中粗粒グライ土)。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植(22.2 株/㎡)。代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 ㎡ 2 区制。

調査方法：移植 40 日後に調査した。

表 8 ヤイバジャンボ処理による水稻生育・収量への影響(平成 22 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	薬害			草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	穂数 (本/㎡)	出穂期 (月/日)	精粒重 (kg/10a)	体系 除草区 比(%)
		症状	程度	回復の 遅速						
ヤイバ ジャンボ	+ 3 日 25g×10	初期生育 抑制	微	早	55	592	441	7/27	884	103
	ノビエ 2.5 葉期 25g×10	—	無	—	59	541	466	7/26	833	97
トップガンL フロアブル	+ 5 日 500ml	—	無	—	59	556	556	7/2	901	105
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日 1kg+1kg	—	無	—	61	600	496	7/27	858	100
無処理	—	—	—	—	60	430	372	7/25	591	69

b)、c)、試験方法は表 1 と同じ。

調査方法：草丈・茎数は 7 月 1 日調査。

イ 平成 23 年に安曇野市の現地ほ場で実施した試験では除草効果は高く(表 9)、薬害は認められなかった。

表 9 ヤイバジャンボの雑草防除効果^{a)}(平成 23 年、松本農業改良普及セ)

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生広葉 ^{d)}	合計
ヤイバジャンボ	+ 13 日	25g×10	1	1	1
無処理	—	—	8.2	8.6	16.8
(比較) ^{b)} サンシャインジャンボ	+ 13 日	30g×10	1	1	1
(比較) ^{b)} 無処理	—	—	1.8	16.8	18.6

a)、c)は表 1 と同じ

b)比較は試験区の隣接ほ場で実施

d)アゼナ、ミゾハコベ、チョウジタデの合計

試験方法：試験場所は安曇野市豊科(標高 540m、沖積土・砂壤土)。品種は「コシヒカリ」、中苗、機械移植。代かきは 5 月 11 日、移植は 5 月 14 日。1 区 30a、反復なし。

調査方法：7 月 1 日に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(4) ベストパートナージャンボ

ア 平成 23 年に農業試験場で実施した試験では、移植後 3 日～ノビエ 3 葉期処理の除草効果は高かった（表 10）。移植後 3 日処理で軽微な薬害が認められたが、その後の生育収量への影響はなかった（表 11）。

表 10 ベストパートナージャンボの雑草防除効果^{a)}（平成 23 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量 (/10a)	ノビエ	タマガヤツリ	一年生広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計
ベストパートナー	+ 3 日	25g×10	t	0	t	0	t
ジャンボ	ノビエ 3 葉期	25g×10	t	0	t	2	1
トップガンLフロアブル	+ 5 日	500ml	0	0	t	t	t
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日	1kg+1kg	0	0	t	t	t
無処理	—	—	17.7	0.1	37.7	38.1	93.6

a)、c)は表 1 と同じ

b)体系除草はソルネット 1 キロ粒剤→ザーベックス DX 1 キロ粒剤

d)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場（標高 340m、中粗粒グライ土）。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植（22.2 株/m²）。代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 13 日。1 区 7.2 m² 2 区制。

調査方法：移植 40 日後に調査した。

表 11 ベストパートナージャンボ処理による水稻生育・収量への影響（平成 23 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量 (/10a)	薬害			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	出穂期 (月/日)	精粒重 (kg/10a)	体系除草区比 (%)
		症状	程度	回復の遅速						
ベストパートナー	+ 3 日 25g×10	初期生育抑制	微	早	67	547	439	7/27	952	100
ジャンボ	ノビエ 2.5 葉期 25g×10	—	無	—	66	586	472	7/27	978	103
トップガンL フロアブル	+ 5 日 500ml	—	無	—	64	500	384	7/27	875	92
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日 1kg+1kg	—	無	—	64	593	434	7/27	953	100
無処理	—	—	—	—	61	339	237	7/25	395	41

b)、c)、試験方法は表 1 と同じ。

調査方法：草丈・茎数は 7 月 1 日調査。

イ 平成 23 年に富士見町の現地ほ場で実施した試験では除草効果は高く（表 12）、薬害は認められなかった。

表 12 ベストパートナージャンボの雑草防除効果^{a)}（平成 23 年、諏訪農業改良普及セ）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量 (/10a)	一年生広葉 ^{d)}	ウリカワ	合計
ベストパートナージャンボ	+ 18 日	25g×10	0	0	0
(比較) ^{b)} トップガンLジャンボ	+ 18 日	25g×10	—	t	t
無処理	—	—	7.6	6.6	14.2

a)、c)は表 1 と同じ

b)比較は試験区の隣接ほ場で実施

d)アゼナ主体に発生

試験方法：試験場所は富士見町乙事（標高 950m、黒ボク土・埴壤土）。品種は「あきたこまち」、中苗。代かきは 5 月 8 日、移植は 5 月 13 日。1 区 30a、反復なし。

調査方法：6 月 21 日に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(5) ムソウ1キロ粒剤

ア 平成22年に農業試験場で実施した試験では、移植後3日～ノビエ3葉期処理の除草効果は高かった(表13)。移植後3日処理で軽微な薬害が認められたが、その後の生育収量への影響はなかった(表14)。

表13 ムソウ1キロ粒剤の雑草防除効果^{a)}(平成22年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	ノビエ	タマガヤツリ	一年生広葉 ^{d)}	マツバイ	ホタルイ	合計	クログワイ ^{e)}	オモダカ ^{e)}
ムソウ1キロ粒剤	+3日	1kg	1	0	t	0	0	t	(5)	(45)
	ノビエ3葉期	1kg	2	0	t	0	3	2	(2)	(103)
トップガンLフロアブル	+5日	500ml	0	0	t	0	t	t	(35)	(22)
体系除草 ^{b)}	+0日→+20日	1kg+1kg	0	0	t	0	t	t	(0)	(48)
無処理	—	—	10.5	1.1	47.5	0.4	62.6	122.1	(0.8)	(0.9)

a)、c)は表1と同じ

b)体系除草はソルネット1キロ粒剤→マメットSM1キロ粒剤

d)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、中粗粒グライ土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/m²)。

代かきは5月9日、移植は5月14日。1区7.2m²2区制。

調査方法：移植40日後に調査した。

表14 ムソウ1キロ粒剤処理による水稻生育・収量への影響(平成22年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	薬害			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	出穂期 (月/日)	精粒重 (kg/10a)	体系 除草区 比(%)
		症状	程度	回復の 遅速						
ムソウ1キロ 粒剤	+3日 1kg	初期生育 抑制	微	早	55	592	441	7/27	884	103
	ノビエ3葉期 1kg	—	無	—	59	541	466	7/26	833	97
トップガンL フロアブル	+5日 500ml	—	無	—	59	556	556	7/27	901	105
体系除草 ^{b)}	+0日→+20日 1kg+1kg	—	無	—	61	600	496	7/27	858	100
無処理	—	—	—	—	60	430	372	7/25	591	69

b)、c)、試験方法は表1と同じ。

調査方法：草丈・茎数は7月1日調査。

イ 平成23年に佐久市の現地ほ場で実施した試験では除草効果は高く(表15)、薬害は認められなかった。

表15 ムソウ1キロ粒剤の雑草防除効果^{a)}(平成23年、佐久農業改良普及セ)

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計
ベストパートナージャンボ	+7日	1kg	0	2	2	1
無処理	—	—	4.1	6.9	1.2	12.2
(比較) ^{b)} ポッシブルLジャンボ	+7日	50g×10	100	—	100	100
(比較) ^{b)} 無処理	—	—	t	—	0.2	0.2

a)、c)は表1と同じ

b)比較は試験区の隣接ほ場で実施

d)コナギ、ミゾハコベ、アゼナの合計

試験方法：試験場所は佐久市本新町(標高690m、沖積・埴土)。品種は「コシヒカリ」、中苗。代かきは5月21日、移植は5月24日。1区30a、反復なし。

調査方法：7月8日に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(6) マイウェイ 1 キロ粒剤

ア 平成 20 年に農事試験場原村試験地で実施した試験では、移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期処理の除草効果は高く（表 16）、薬害は認められなかった。

表 16 マイウェイ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)}（平成 20 年、農事試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量 (/10a)	ノビエ	一年生 広葉 ^{d)}	マツバイ	ホタルイ	ヒルムシロ	合計
マイウェイ 1 キロ粒剤	+ 3 日	1kg	7	t	0	t	4	5
	ノビエ 2.5 葉期	1kg	3	36	11	109	7	8
トップガンLフロアブル	+ 5 日	500ml	t	0	2	9	t	t
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日	1kg+1kg	0	0	t	0	1	t
無処理	—	—	17.5	3.6	0.6	0.2	15.0	36.6

a)、c)は表 1 と同じ

b)体系除草はソルネット 1 キロ粒剤→ザーベックスDX 1 キロ粒剤

d)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農事試験場原村試験地水田ほ場（標高 1.020m、多湿黒ボク土）。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植（22.2 株/m²）。代かきは 5 月 16 日、移植は 5 月 27 日。1 区 7.2 m² 2 区制。

調査方法：移植 40 日後に調査した。

イ 平成 21 年に農業試験場で実施した試験では、移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期処理の除草効果は高く（表 17）、薬害は認められなかった。

表 17 マイウェイ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)}（平成 21 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量 (/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生 広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計
マイウェイ 1 キロ粒剤	+ 3 日	1kg	0	0	0	0	0
	ノビエ 2.5 葉期	1kg	0	0	0	0	0
トップガンLフロアブル	+ 5 日	500ml	0	0	0	0	0
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日	1kg+1kg	0	0	0	8	t
無処理	—	—	1.5	0.9	27.2	3.8	33.4

a)、c)は表と同じ

b)体系除草はソルネット 1 キロ粒剤→マメットSM 1 キロ粒剤

d)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農業試験場原村試験地水田ほ場（標高 340m、中粗粒グライ土）。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植（22.2 株/m²）。代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 m² 2 区制。

調査方法：移植 40 日後に調査した。

(7) マイウェイジャンボ

ア 平成 22 年に農業試験場で実施した試験では、移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期処理の除草効果は高く（表 18）、薬害は認められなかった。

表 18 マイウェイジャンボの雑草防除効果^{a)}（平成 22 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量 (/10a)	ノビエ	タマガヤツリ	一年生 広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計
マイウェイジャンボ	+ 3 日	1kg	0	0	t	0	t
	ノビエ 2.5 葉期	1kg	0	0	1	0	t
トップガンLフロアブル	+ 5 日	500ml	0	0	t	0	t
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日	1kg+1kg	0	0	0	1	t
無処理	—	—	13.5	t	25.0	40.7	79.2

a)、c)は表 1 と同じ

b)体系除草はソルネット 1 キロ粒剤→マメットSM 1 キロ粒剤

d)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場（標高 340m、中粗粒グライ土）。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植（22.2 株/m²）。代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 m² 2 区制。

調査方法：移植 40 日後に調査した。

イ 平成 23 年に松川村の現地ほ場で実施した試験では除草効果は高く（表 19）、薬害は認められなかった。

表 19 マイウェイジャンボの雑草防除効果^{a)}（平成 23 年、北安曇農業改良普及セ）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	コナギ
マイウェイジャンボ	+ 6 日	25g×10	12
無処理	—	—	2.3
(比較) ^{b)} イノーバDXアップ1キロ粒剤 + クリンチャー1キロ粒剤	+ 6 日 →+32 日	1kg →1kg	0
(比較) ^{b)} 無処理	—	—	t

a)、c)は表 1 と同じ

b)比較は試験区の隣接ほ場で実施

試験方法：試験場所は北安曇郡松川村（標高 600m、中粗粒灰色低地土・砂壤土）。品種は「コシヒカリ」、稚苗。代かきは 5 月 16 日、移植は 5 月 19 日。1 区 12a、反復なし。

調査方法：6 月 27 日に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(8) マイウェイゼロ 1 キロ粒剤

ア 平成 23 年に農業試験場で実施した試験では、移植直後～ノビエ 2 葉期処理の除草効果は高く（表 20）、薬害は認められなかった。

表 20 マイウェイゼロ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)}（平成 22 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生 広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計
マイウェイゼロ 1 キロ粒剤	+ 0 日	1kg	0	3	0	3
	ノビエ 2 葉期	1kg	0	t	0	t
トップガンLフロアブル	+ 5 日	500ml	0	t	0	t
無処理	—	—	0.1	7.2	0.5	7.8

a)、c)は表 1 と同じ

d)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場（標高 340m、中粗粒グライ土）。品種は「天竜乙女」。中苗、機械移植。代かきは 5 月 10 日、移植は 5 月 14 日。

調査方法：移植 37 日後に調査した。

イ 平成 23 年に農業試験場で田植え同時処理を行った試験では、除草効果は高く（表 21）、実用的効果を確認した。薬害は認められなかった。

表 21 マイウェイゼロ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)}（平成 22 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生 広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計
マイウェイゼロ 1 キロ粒剤	田植え同時	1kg	0	t	0	t
	+ 0 日手散布	1kg	0	3	0	3
無処理	—	—	0.1	7.2	0.5	7.8

a)、c)は表 1 と同じ

d)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場（標高 340m、中粗粒グライ土）。品種は「天竜乙女」。中苗、機械移植。代かきは 5 月 10 日、移植は 5 月 14 日。田植え同時処理は人力で移植機上から胸抱え散粒機により散布。

調査方法：移植 37 日後に調査した。

6 特記事項

[公 開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成 22 年度(2010 年度)、民間受託

県植物防疫協会委託試験（普及展示ほ）、平成 23 年度（2011 年度）、その他